

# 全ての企業が意識すべきCO<sub>2</sub>排出量削減の最新動向

気候変動に関する国際的な枠組み「パリ協定」の発効、2050年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル宣言」など、脱炭素社会の実現に向けた動きが加速しています。



## 脱炭素経営をワンストップでサポート

**D-Lineup** × **アスエネ**

### Scope3 まで対応

サプライチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量見える化から  
低・脱炭素ソリューションによるCO<sub>2</sub>排出量削減へ

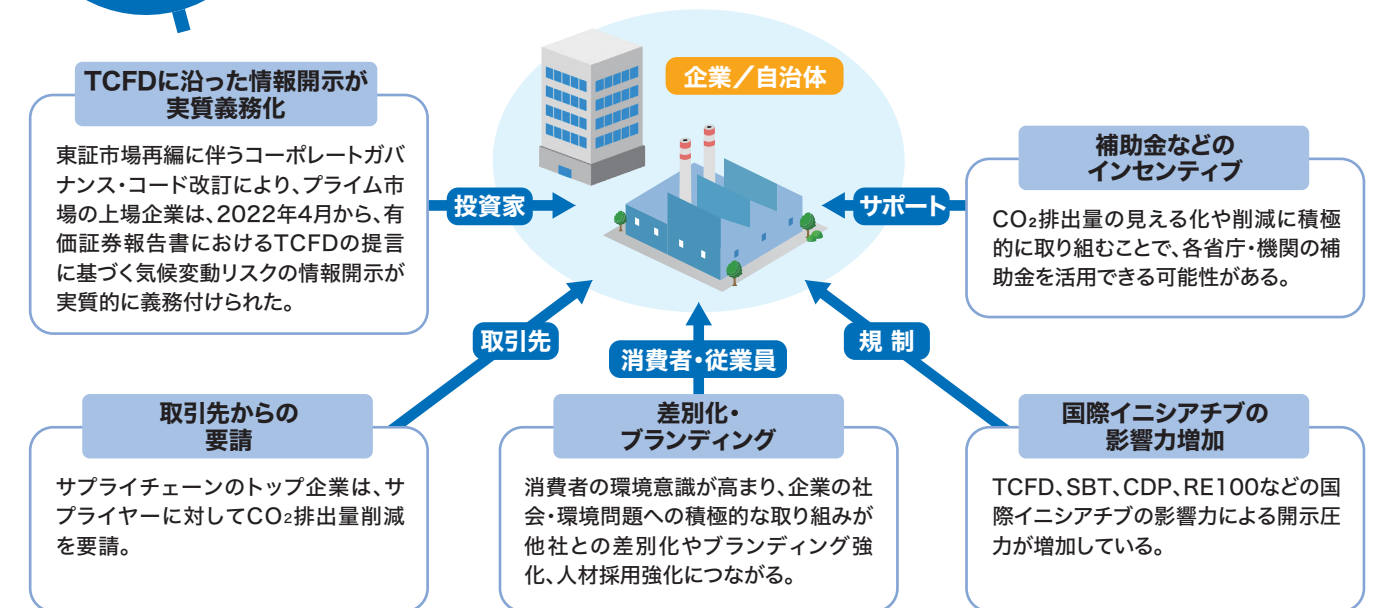
**Daigas エナジー** × **アスエネ**

## 避けては通れない「CO<sub>2</sub>排出量見える化」

高まる  
情報開示の  
重要性

### さまざまな観点から避けては通れないCO<sub>2</sub>排出量の見える化

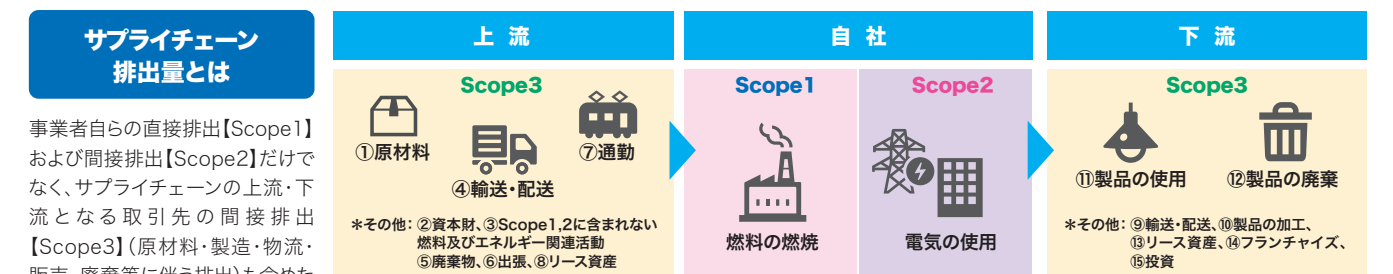
SBTやTCFDなどの国際イニシアチブの影響力の高まりを背景に、企業は様々なステークホルダーに対して、CO<sub>2</sub>排出量に関する情報開示が必要不可欠となりました。



## CO<sub>2</sub>排出量見える化の課題

<各過程でみられる課題>

- |   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| <b>① 見える化</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>●算定方法・領域がわからない</li> <li>●データの収集や算出に時間がかかる(サプライチェーン排出量の把握が困難)</li> </ul> | <b>② 削減</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>●最適なCO<sub>2</sub>削減手法や費用対効果がわからない</li> <li>●どんな削減目標やシナリオを作ればよいかわからない</li> </ul> | <b>③ オフセット</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>●オフセットするクレジットの種類が多く、違いや対応イニシアチブがわからない</li> </ul> | <b>④ 報告</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>●CDP・省エネ法などイニシアチブ毎に報告フォーマットが異なり、作成に時間がかかる</li> </ul> |
|---|--|---|--|



Scope1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス) Scope2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出  
Scope3: Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)  
出典:「サプライチェーン排出量算定をはじめの方へ」(環境省) ([https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply\\_chain/gvc/supply\\_chain.html](https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/supply_chain.html))をもとに当社が作成

特に、【Scope3】の見える化は、膨大なデータ収集と煩雑な仕分け作業などの多大な労力がかかり、知識やノウハウが必要となります。

# 脱炭素経営をワンストップでサポート

# D-Lineup × アスエネ

## エネルギー × テクノロジーの相乗効果

アスエネ社は、Scope1~3のサプライチェーン全体におけるCO<sub>2</sub>排出量見える化・削減・報告を行うクラウドサービス「アスエネ」、およびSX<sup>※1</sup>コンサルティングを提供。Daigasエナジーは、エネルギー会社の強みを活かした低・脱炭素ソリューションを提供。これらにより、企業のCO<sub>2</sub>排出量見える化から低・脱炭素ソリューションによるCO<sub>2</sub>排出量削減までをワンストップでサポートします。

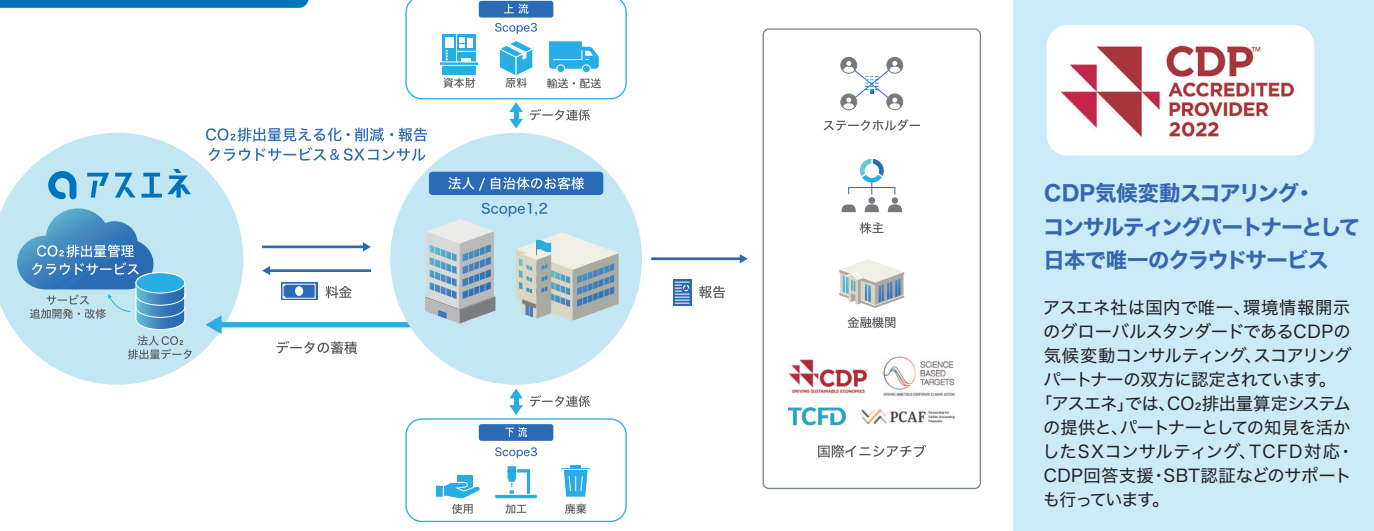
※1. SX(Sustainability Transformation):企業が「稼ぐ力」を維持するために、持続可能性を重視した経営へ転換を図ること



## CO<sub>2</sub>排出量見える化・削減・報告クラウドサービス「アスエネ」

「アスエネ」は、CO<sub>2</sub>排出量見える化から削減、カーボンオフセット対応、CDP・TCFDなどのイニシアチブ報告支援まで脱炭素経営の業務工数を最大70%削減するクラウドサービスです。

### サービス概要



### 「アスエネ」が選ばれる理由

AIを活用した画像アップロードなどの基本機能はもちろんのこと、カーボンオフセット(各種クレジット・環境証書)対応、シナリオ分析や計画策定・各種報告など、脱炭素経営に役立つさまざまな機能が備わっています。

**POINT 01 AI-OCRスキャンで自動で見える化**



- Scope1-3のデータ回収・入力・算出をAI+人力で自動化
- お客様の算出工数を削減

**POINT 02 国際認証システムで正確性向上・効率化**



ISO14064-3・ISMSなどの国際認証取付最新機能搭載のシンプルで使いやすいシステムで正確性向上・効率化

**POINT 03 CO<sub>2</sub>削減もまとめておまかせ**



SaaS+SXコンサルなど、脱炭素のワンストップ・ソリューションを提供、最適なCO<sub>2</sub>削減を実行

## 脱炭素ソリューション D-Lineup

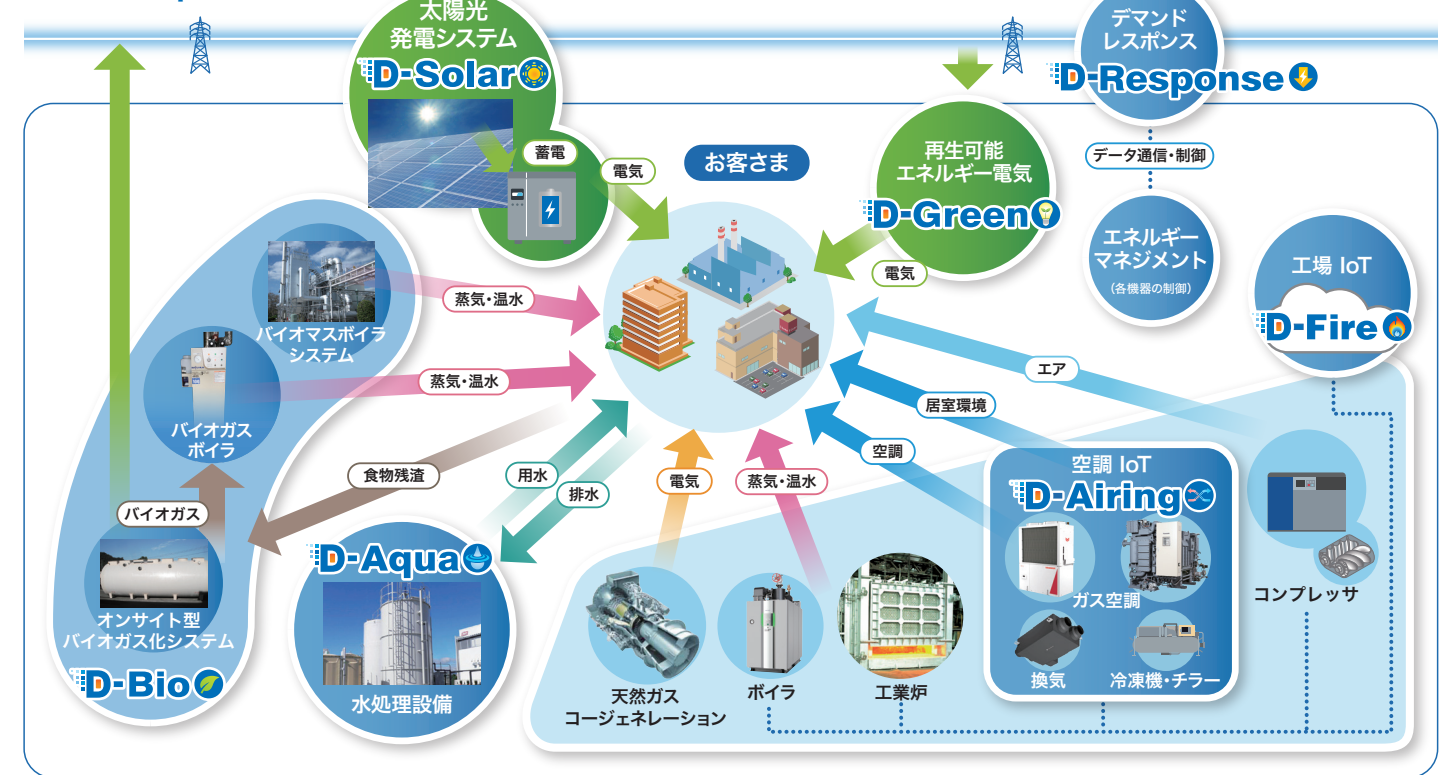
3つのD **Decarbonization** 脱炭素化 **Decentralization** 分散化 **Digitalization** デジタル化 を軸とした低・脱炭素ソリューションです。エネルギー会社の強みを活かし、お客様の様々なニーズにお応えします。

### D-Lineupの主要7サービス



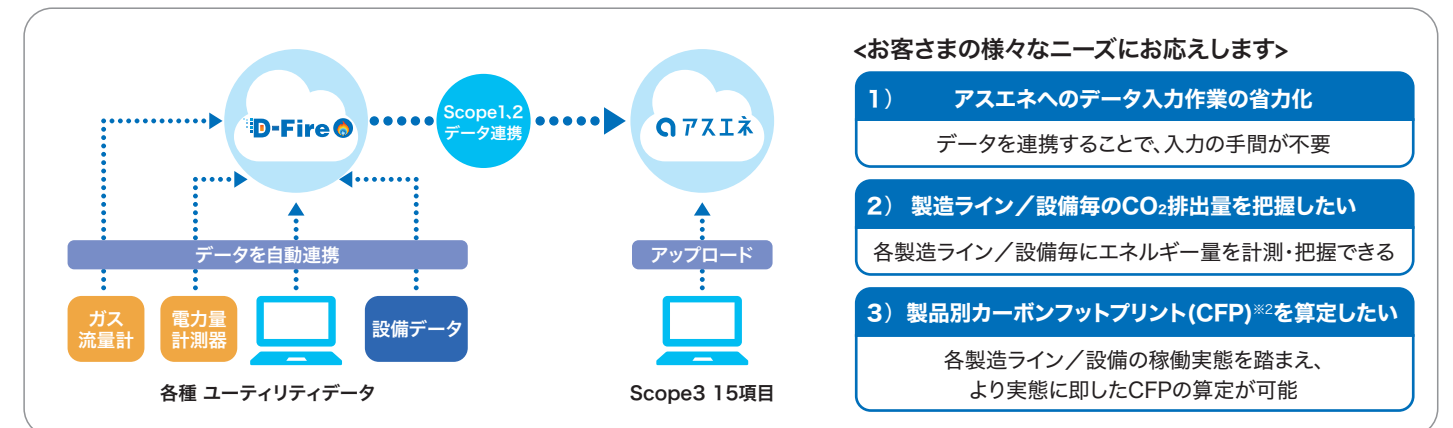
今後も順次  
拡大予定

### D-Lineupの全体像



### 【設備の一次データ連携について(D-Fireの活用)】

アスエネに、工場向けIoTサービス「D-Fire」<sup>※1</sup>を連携することで、工場・施設の一次データを活用したCO<sub>2</sub>排出量見える化が可能です。



<お客様の様々なニーズにお応えします>

- 1) アスエネへのデータ入力作業の省力化  
データを連携することで、入力の手間が不要
- 2) 製造ライン/設備毎のCO<sub>2</sub>排出量を把握したい  
各製造ライン/設備毎にエネルギー量を計測・把握できる
- 3) 製品別カーボンフットプリント(CFP)<sup>※2</sup>を算定したい  
各製造ライン/設備の稼働実態を踏まえ、より実態に即したCFPの算定が可能

※1 D-Fireとは、さまざまなデータと連携し、お客様の「省エネ・省人化」「品質均一化」「稼働安定」などを実現するIoTサービスです。  
※2 CFP(Carbon Footprint of Products)とは、商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO<sub>2</sub>に換算して、商品やサービスに分かりやすく表示する仕組みです。

## 導入事例 — アスエネ —

**アスエネ**

プライム市場 上場子会社  
**小売業**  
(連結従業員数:約24,000名)

**課題**

アスエネでの解決

- サステナビリティの基礎から分からない。
- 6つの重要課題の1つの気候変動への対応の推進。

- 気候変動への取り組みの目標・KPIの策定。
- 気候変動に関する外部環境の勉強会実施。
- アスエネ CO<sub>2</sub>排出量SaaS&SXコンサル導入。

脱炭素経営に向けた具体的な取り組みを開始できた

**アスエネ**

プライム市場 上場企業  
**製造業・メーカー**  
(従業員数:約2,500名)

**課題**

アスエネでの解決

- CDP回答に対するノウハウ不足。
- 自社製品のCO<sub>2</sub>排出量削減効果を数値で示したい。
- グループ会社が多く、持ち株会社だけでScope3に必要な情報の取得や算定が困難。

- アスエネ CO<sub>2</sub>排出量SaaS&SXコンサル導入
- CO<sub>2</sub>排出量削減の提案

脱炭素に取り組む姿勢や商品力を社内外に発信できた

## 導入事例 — D-Lineup —

**D-Solar**

プライム市場 上場会社  
**六甲バター株式会社**  
太陽光パネル:984kW

**課題**

D-Solarでの解決

- 新工場のエネルギー使用量が、想定より上振れしていたため、省エネ、CO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みが必要だった。
- 新工場建設直後のため、省エネ設備への追加投資をするか悩んでいた。

- イニシャルレスのエネルギーサービスを導入することで、初期投資の負担なく省エネ、CO<sub>2</sub>排出量削減を実現できた。
- 将来の再エネ賦課金、電力単価の上昇リスクを低減できる。

将来的な電力単価上昇リスク低減にも繋がった

**D-Fire**

非上場  
**日本盛株式会社**  
D-Fire 省エネと業務効率化

**課題**

D-Fireでの解決

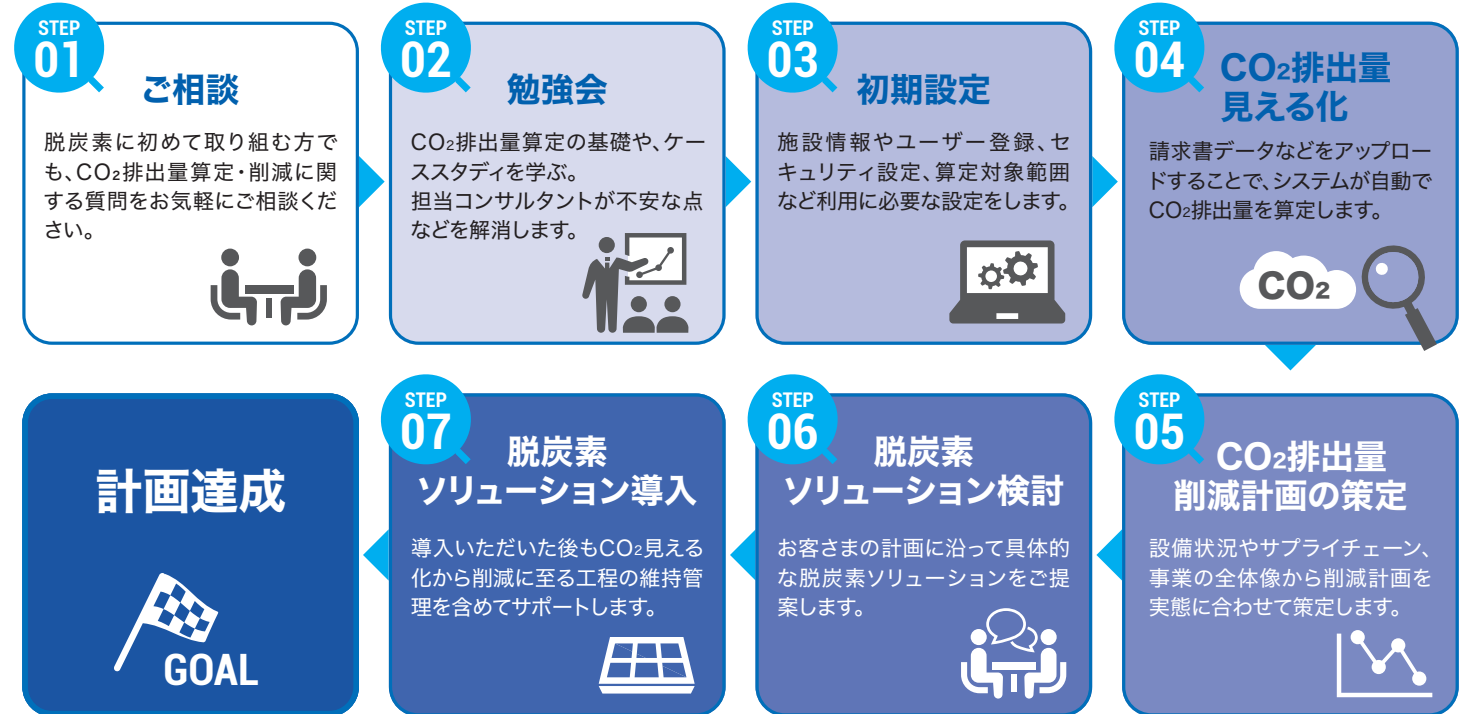
- 蒸気や水、電気、温水などの使用量の測定・データ入力をすべて人力で行っており手間と時間がかかっていた。
- 省エネ法のエネルギー管理指定工場に指定されており、年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減が努力義務となっていたが、これまでできる省エネ対策はすべて実施してきており、限界に近づいていた。

- 手動で行っていたボイラ設備・電力量管理の検針作業が自動化でき、リアルタイムでの正確なデータ収集が可能になった。
- 蒸気使用量のリアルタイムなデータを活用して、蒸気配管系統の集約やボイラ稼働台数の適正化を行い、省エネおよび設備費・メンテナンス費用の大幅な削減を実現した。

エネルギー管理の手間を軽減 省エネの実現と設備維持費用の削減

## 導入までの流れ

CO<sub>2</sub>排出量算定から具体的なCO<sub>2</sub>削減策の実行に至るまで、ワンストップでサポートします。



### 用語集

- ◆TCFD (Task Force on Climate-related Financial Disclosures)  
企業の気候変動への取り組み、影響に関する情報を開示する枠組み。投資家が適切な投資判断をする上で必要となる気候関連財務情報開示を企業に促すことを目的とする。
- ◆SBT (Science Based Targets)  
企業の科学的な中長期の目標設定を促す枠組み。パリ協定が求める水準に整合した5年～15年先を目標年として企業が設定するGHG排出量削減目標。
- ◆CDP (Carbon Disclosure Project)  
機関投資家が連携し、企業に対して気候変動への戦略やGHG排出量に関する公表を求めるプロジェクト。
- ◆RE100 (Renewable Energy 100)  
企業が事業活動に必要な電力の100%を再エネで賄うことを目指す枠組み。

### ◆アスエネ画面イメージ



↓詳しくは



**D-Lineup × アスエネ**

詳しくは ↓



## アスエネ

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-10-5 KDX虎ノ門一丁目ビル WeWork 4階  
TEL.050-3188-4866  
<https://earthene.com/corporate>

### アスエネ株式会社 会社概要

代表者：代表取締役CEO 西和田 浩平  
資本金：25億2,681万円(資本剰余金含む)  
認定/加盟：CDPパートナー、JEITA、RE100運営事務局JCLP 他  
認証：ISO27001 (ISMS)、ISO14064-3

## Daigas エナジー

〒541-0046 大阪市中央区平野町四丁目1番2号  
TEL.06-6205-4641 FAX.06-6202-2502

### 会社概要

<https://www.daigas-energy.co.jp/company/>

### 各種商材・サービス

<https://ene.osakagac.co.jp/product/index.html>

### お電話でのご相談は

Daigas エナジー エネルギーコンタクトセンター

**0120-563-862**

平日(月～金)9:00～17:30